



【発行】

茨城県 政策企画部 地域振興課

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町978番6

Tel:029-301-2730 FAX:029-301-2789

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/jisui/kashima/plan/vision.html>



<参考文献>

経済産業省 第2期茨城県鹿島臨海地域基本計画

鹿島臨海工業地帯の競争力強化に向けた将来ビジョン

Unlock Your Potential at **KASHIMA**

～ 成長と挑戦の拠点 ～

令和8(2026)年3月



鹿島臨海工業地帯の競争力強化に向けた将来像

- Vision -

はじめに ～将来ビジョン改訂の概要～

鹿島臨海工業地帯の開発は、1961年の鹿島臨海工業地帯造成計画を皮切りに、2015年から2020年までの競争力強化プランを経て、現在の競争力強化に向けた将来ビジョン（以降、将来ビジョンと表記）を策定しています。2021年から2025年の将来ビジョンでは、鹿島臨海工業地帯の優れた産業集積拠点、様々な供給拠点の利点を活かし、官民一体となって取り組む体制のもと、まちづくりの視点を含めた地域による体系的な支援を基盤として、高い生産性や高付加価値化、新たなテクノロジーを活用したスマート保安や脱炭素化への適応が実現されたスマートコンビナート「KASHIMA」の構築を目指してきました。

しかしながら、2050年カーボンニュートラル実現に向けたコンビナートのあり方が現在変革に迫られていることや、AIやIoT等の最先端技術が急速に進歩していること、また、目まぐるしく変わる世界経済、人口減少による労働力不足といった様々な社会的背景に対応するため、現在設定している将来ビジョンの推進項目をスリム化し、競争力の強化を図っていきます。

今後の製造業に影響を与える社会的情勢

- 国内製造体制の再定義、コンビナートの再編と転換
- 2050年カーボンニュートラル実現の世界的潮流
- エネルギー転換を含むGXに向けた取り組みの加速
- 新たな製造プロセス、新規技術開発の進展
(CCUS、ケミカルリサイクル、バイオマス等)
- サプライチェーン全体を巻き込んだDX化のさらなる進展
- AI、IoT等の最先端技術を活用した設備や業務管理への転換
- 人口減少に伴う労働力不足、インフラ設備の老朽化



《将来ビジョン改訂後の推進施策》

推進 I

カーボンニュートラルを見据えたGX産業の創出

【目的】脱炭素社会の実現と新産業の創出

- 次世代エネルギー (水素・アンモニア)
- 再生可能エネルギー (風力・バイオマス等)
- ケミカルリサイクル

推進 II

DX・スマート化の推進

【目的】生産プロセス最適化と安全性の向上

- スマートデバイス・カメラ・センサー
- データ分析
- IoT・AI技術
- ドローン活用

推進 III

生産基盤の向上・競争力の高い生産体制づくりの推進

【目的】安定した生産体制の確保と競争力の維持

- 高付加価値製品の開発・製造
- 設備の生産性向上
- インフラ設備
- 交通網(物流)
- 労働力の確保
- 医療体制の強化

各推進施策の主な取り組みの方向性について

新たな将来ビジョンでは、推進項目を3つに集約し、産業振興に関する内容により注力していきます。2050年に向けたカーボンニュートラル実現や、今後さらなるデジタル化の進展が必要なこと、また、国内需要の減退や事業再編等といった様々な課題に立ち向かうため、「カーボンニュートラル」「DX・スマート化」を2本柱として、国際競争力を高めていきます。「生産基盤の向上」は、それらを支え、互いに補完しあう構図として、継続的に推進していきます。

地域とともに脱炭素に向けた持続可能な産業を創り、日本を支える強靱なスマートコンビナート「KASHIMA」を目指して



推進 I

カーボンニュートラルを見据えたGX産業の創出

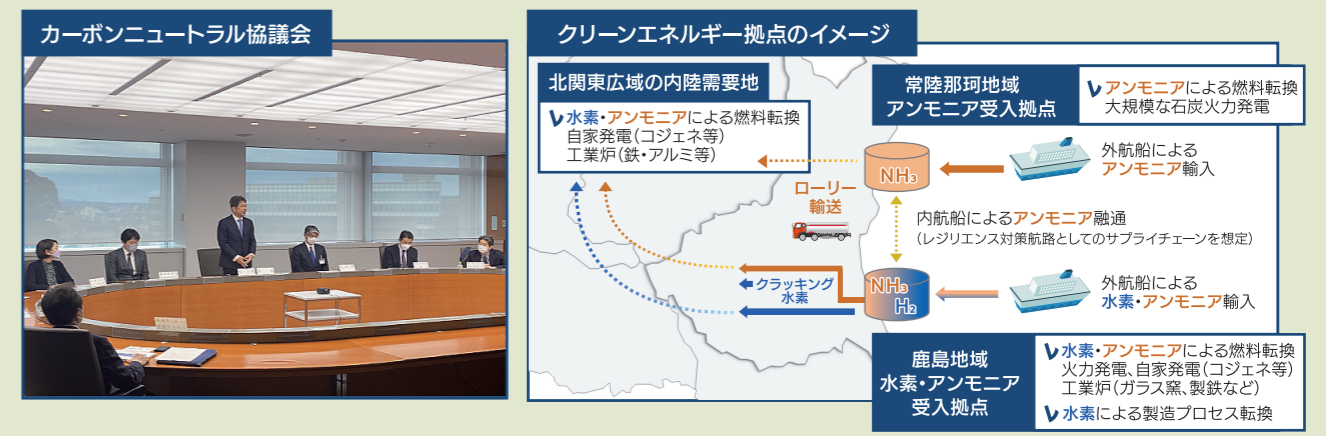
2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、CO₂排出削減とともに、次世代エネルギーサプライチェーンの構築とエネルギー構造の抜本的転換を通して、茨城県の将来を担う産業の創出、及び産業競争力・立地競争力の強化を図ります。

推進施策

- 1、次世代エネルギーの供給・産業集積拠点化
 - ①水素・アンモニアのサプライチェーン構築
 - ②洋上風力発電関連産業の創出
 - ③次世代エネルギー産業の創出
- 2、サーキュラーエコノミー推進による新産業の創出
 - ①ケミカルリサイクルとグリーンケミカルの推進
 - ②鉄鋼・ガラス等素材産業の脱炭素・循環化
 - ③CO₂の資源化・産業化の推進

茨城県の取組①

<p>カーボンニュートラル協議会</p> <p>温室効果ガスの大幅削減、新エネルギーや再生可能エネルギー等を活用し産業競争力・立地競争力の強化を実現していくために必要な、産官学の連携を図るため、「いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出推進協議会」を設置しています。</p>	<p>クリーンエネルギー拠点の形成</p> <p>石炭火力発電所等でのアンモニア利用や鹿島臨海工業地帯での水素利用を実現するため、茨城港・鹿島港という重要港湾を活かし、水素・アンモニアのクリーンエネルギー拠点の形成を目指しています。</p>	<p>カーボンニュートラルポート</p> <p>茨城県は、2023年3月に全国初となる港湾脱炭素化推進計画を策定。鹿島港、茨城港では、次世代エネルギーである水素、アンモニア等の大量・安定・安価な輸入・貯蔵等を可能とする受け入れ環境の検討をはじめ、様々な取組を展開しています。</p>
--	---	--



推進 I

●カーボンニュートラルを見据えたGX産業の創出

茨城県の取組②

カーボンニュートラル産業拠点創出に向けて基金や補助金等を設置しています

温室効果ガスの排出削減に向けた世界的な取組が急速に進む中、産業界においても、ESG投資の拡大や、グローバル企業からの脱炭素化の要求等により、カーボンニュートラル対応が不可避な状況となっています。茨城県では、全国に類のない200億円の基金の設置や、水素やアンモニア等の新エネルギーの導入及びそのサプライチェーン構築、または県内の低炭素化・脱炭素化を促進する実行可能性調査（フィジビリティスタディ）を行う企業を支援するため、その費用の補助を行っています。

●カーボンニュートラル産業拠点創出推進基金(200億円)

資金確保が困難な民間連携の初期段階において県が設備投資への支援を講じることで、民間の投資や国の支援・施策を本県に呼び込むことを目的に設置しています。

●いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出に向けた実行可能性調査費補助金

実施場所を茨城県内に限り、新エネルギーの導入及びそのサプライチェーン構築、または県内の低炭素化・脱炭素化を促進する実行可能性調査を行う企業を支援するための補助金です。

※その他にも各種優遇制度があります。詳細は茨城県のHPをご確認ください。



カーボンニュートラル実現に向けて、戦略的パートナーシップ協定を締結

茨城県は、三菱ケミカル(株)と鹿島臨海工業地帯における循環型コンビナートの形成や臨海部を拠点としたカーボンニュートラル産業拠点の創出に向けた戦略的パートナーシップ協定を締結しています。当工業地帯における循環型コンビナートの形成や臨海部を拠点としたカーボンニュートラル産業拠点の創出に向け、連携・協力を図ることにより、地域経済の持続的な発展と、わが国における循環型社会及びカーボンニュートラルの実現を目指しています。



立地企業の取組



ケミカルリサイクルプラント
(三菱ケミカル(株)茨城事業所)

茨城事業所でケミカルリサイクル設備竣工《三菱ケミカル(株)》

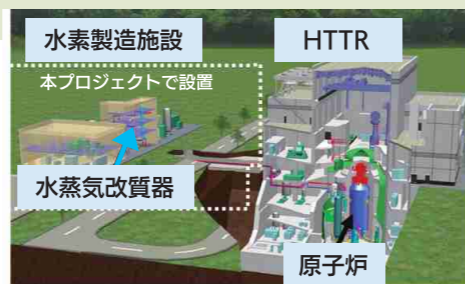
ENEOS(株)と共同で取り組む使用済みプラスチック油化事業の推進のため、三菱ケミカル(株)茨城事業所内で建設を進めていたケミカルリサイクル設備が2025年7月に竣工しました。商業ベースでは国内最大規模となる年間2万tの処理能力を備えており、外部から調達した使用済みプラスチックを、英国のMura Technology社の超臨界水熱分解技術によって分解して油化します。今後は、設備のさらなる大型化、より多くの使用済みプラスチック処理の実現を目指していきます。

コラム — 茨城県内の動き

●高温ガス炉による水素製造

茨城県には、日本原子力研究開発機構のHTTR(高温ガス炉の試験研究炉)が立地するとともに、HTTRを活用した水素製造に関する研究が進められています。高温ガス炉は、高温熱を活かした準国産のカーボンフリー水素の供給により、製鉄や化学などの素材産業の脱炭素化への貢献が期待されており、茨城県として、水素需要が期待される本県への高温ガス炉実証炉の設置について国への要望を実施しました。

大洗原子力工学研究所
HTTR(高温工学試験研究炉)
—熱利用試験イメージ



推進 II

●DX・スマート化の推進

企業の幅広いDXの取組を後押しするため、DXに関するソリューションを扱う企業と立地企業との交流を促進するとともに、DX推進検討会を発足し、各企業のDX導入に関する課題や事例の共有を実施し、より官民連携した取組支援を図ります。

推進施策

1、企業への伴走支援

マッチング支援会※の計画・開催によるDX・スマート保安技術の導入支援を実施しています。

※マッチング支援会

DX・スマート保安に関する「最新の情報収集」と「スマート保安技術を扱う出展業者とのつながりの場」として、ソリューションを扱っている業者と立地企業とのマッチング支援を展示会を通して実施しています。

2、DX推進検討体制の構築

DX推進検討会の設置・運営による行政・企業間の連携強化、及びDX・スマート保安導入促進に向けた諸活動を展開しています。



DXソリューションフェア In KAMISU
(2025年11月26日開催)

●DXソリューションフェアの開催

「DX支援企業を見つけたい」「AIの有効な活用方法を知りたい」「社内業務や現場業務をDX化したい」といった企業に向けて、毎年度、DXソリューションフェアを開催しています。

※詳細は茨城県公式ホームページをご覧ください(※裏表紙QRコード参照)。

推進 III

●生産基盤の向上・競争力の高い生産体制づくりの推進

企業において、競争力の高い生産体制づくり、高い付加価値を生み出す取組を進めていくために、行政では、企業の生産活動に欠かせない、安定したインフラ設備、労働力確保、医療体制の強化をはじめとし、規制の合理化、税制措置・優遇制度等について支援の充実化を図ります。

【生産基盤設備(インフラ)】

- ・工業用水の安定供給
- ・適切な下水処理の維持管理

【労働力の確保】

- ・いばらき就職支援センターの活用
- ・地元市による就労支援セミナー等の開催

【交通網(物流)】

- ・港湾機能の強化
- ・高速道路の整備、高規格道路の計画

【医療体制の強化】

- ・神栖済生会新病院の早期整備
- ・医師確保に向けた取組
- ・救急医療体制の強化



●転換期にある鹿島臨海工業地帯への期待

首都圏の産業を支える一角である鹿島臨海工業地帯は、日本のカーボンニュートラル化を先導する重要な拠点へと変化を遂げつつあります。新興国の台頭による競争の激化などに直面しつつも、出荷額・付加価値額は堅調に推移し、競争力を維持してきました。一人当たり付加価値の高い産業が多数立地し、人口減少下においても貴重な産業集積と言えます。すでにGX産業創出に向けた投資やDX・スマート化の取組も進展しており、多様な業種の集積やインフラ共同化の実績を基盤として、本ビジョンの実現によるさらなる飛躍が期待されます。



鹿島臨海工業地帯競争力強化会議 委員
成城大学 経済学部 教授
平野 創氏

第2章

- Overview - 鹿島臨海工業地帯の全体像

●鹿島臨海工業地帯の概要

鹿島臨海工業地帯は、1961年に策定された「鹿島臨海工業地帯造成計画(マスタープラン)」に基づき、鹿島灘沿岸の広大な土地と霞ヶ浦、北浦の豊かな水源を活かし、工業用地の造成、掘込港湾である鹿島港、道路、鉄道、工業用水道等の関連インフラの整備が計画的に進められてきました。これらの整備進展に伴い、石油精製、石油化学、鉄鋼の基礎素材産業を中心に、191社、196工場(2025年12月末現在)が操業する国内有数の一大産業集積拠点として発展しました。製造品出荷額は約3兆円にのぼり、茨城県の製造品出荷額の約2割を占めています。

※出典元:2024年経済構造実態調査(製造業事業所調査)

▼DATA

鹿島港を中心に整備された鹿島臨海工業地帯は、広大な緑地帯を設けた住・工分離のレイアウトが特徴です。用排水設備や、電気・ガス等も安定した供給体制が整備されています。

【工業用水】基本料金18~45円/㎡

【電力】66kV特別高圧対応可 【都市ガス】供給可



鹿島臨海工業地帯 エリア図



●利便性の高いアクセス環境

東関東自動車道水戸線 潮来IC: 車で約30分
羽田空港: 車で約90分
成田空港: 車で約45分
茨城空港: 車で約60分
東京駅: 車で約120分

●鹿島港の概要

▼沿革

鹿島港は茨城県南東部の鹿島灘に面し、東京から80kmの距離に位置しており、加えて水資源として年間流入量11億tの霞ヶ浦を控え、工業用地としても3,300ha以上の土地が集約的に確保できるとともに地耐力も極めて大きく、有利な工業立地条件に恵まれていました。

以上のような本地域の特性に着目し、大型船舶を対象とした掘込式港湾建設を中核として、鉄鋼、石油等の基幹産業コンビナート立地のための工業用地の造成を図るとともに、さらに工業用水等の関連施設を整備することにより、大規模な臨海工業地帯を形成してきました。

現在、鹿島港は、2011年に国際バルク戦略港湾(穀物)に選定。また、再生可能エネルギー源を利活用する区域には、洋上風力発電の導入が計画されています。さらに、2020年に、海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾(基地港湾)に指定され、2024年に国による整備が完了しました。

首都圏東側の玄関口として物流機能を担う世界有数の掘込港湾

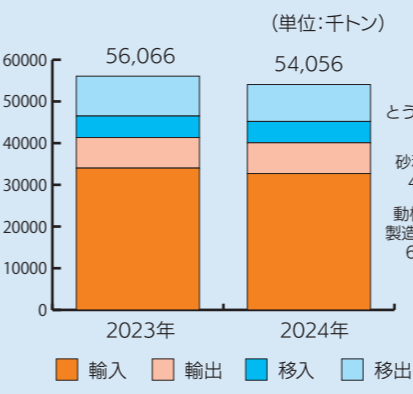
▼DATA

【インフラ情報】

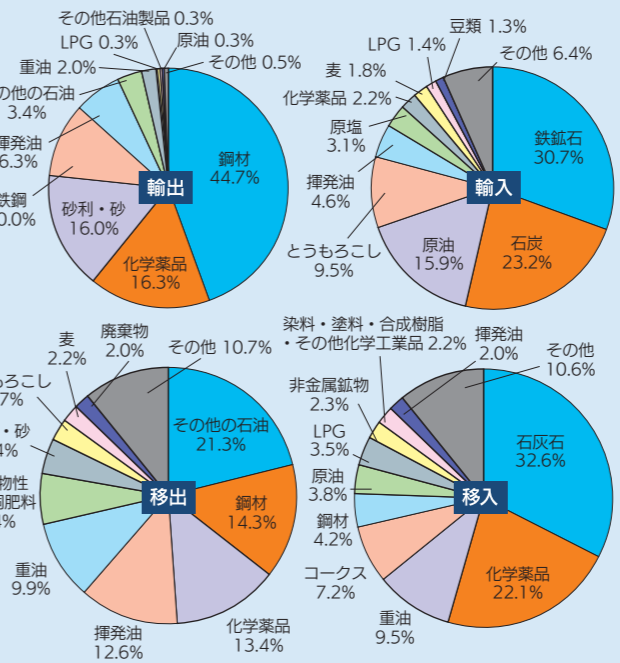
特別高圧電線網(275kV、154kV)
1日最大 885,000㎡の給水能力
(本県全体給水能力の78%)

【取扱貨物量】

54,056千トン(2024年確報値)



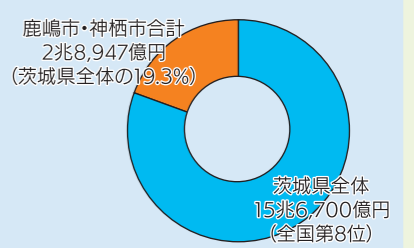
【取扱貨物量/品目別(2024年)】



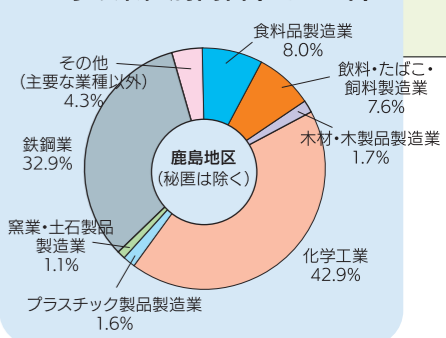
※出典元:茨城県重要港湾取扱貨物量(県港湾課)

●統計情報

▼鹿島地区の製造品出荷額等の全県に占める割合(2024年)



▼鹿島地区の製造品出荷額等の業種別割合(2024年)



※出典元:2024年経済構造実態調査(製造業事業所調査)

強みを活かした各地区 - Features -

●神之池東部地区・奥野谷浜工業団地

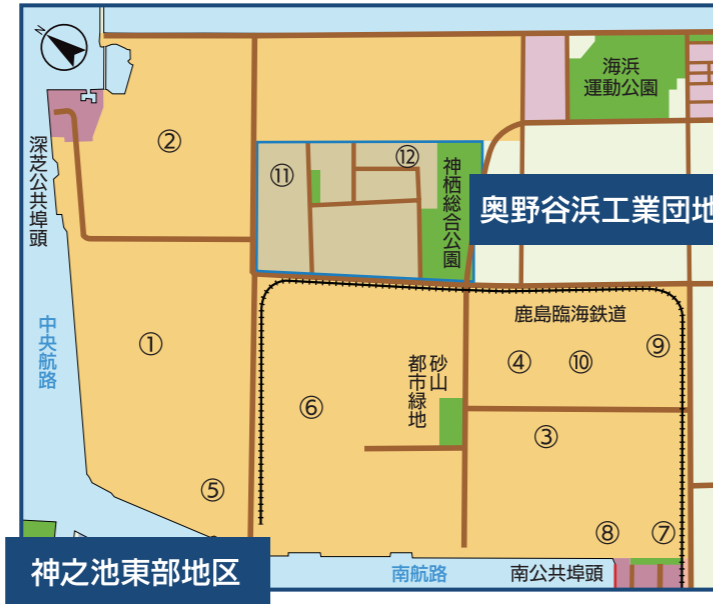
～石油精製・石油化学メーカーを中心に立地し、化学コンビナートを形成～

鹿島臨海工業地帯の東部に位置する「神之池東部地区」は、鹿島港の中央航路及び南航路に接し、石油精製・石油化学メーカーを中心に立地していることにより、化学コンビナートが形成されています。

東関東自動車道水戸線・潮来ICから南東13kmに位置する等の交通インフラが充実しており、立地条件に恵まれた地区です。

また、地区内には、工業用地「奥野谷浜工業団地」があります。新規企業の立地や既存企業の事業拡大を促進することで、産業の活性化を図ることが期待されており、鹿島経済特区指定地域に指定されています。

工業団地内には、大容量の送電網を活用したバイオマス発電所が立地しているなど、豊富で低廉なユーティリティ供給による最適な立地環境を実現しています。



①鹿島石油株式会社 鹿島製油所



②株式会社JERA 鹿島火力発電所



③AGC株式会社 鹿島工場



④株式会社ENEOSマテリアル 鹿島工場



⑤信越化学工業株式会社 鹿島工場



⑥三菱ケミカル株式会社 茨城事業所

その他の主な立地企業

●神之池東部地区

- ⑦株式会社 ADEKA 鹿島化学工場（東地区）
- ⑧株式会社カネカ 鹿島工場（東地区）
- ⑨株式会社クラレ 鹿島事業所
- ⑩三菱ガス化学株式会社 鹿島工場

●奥野谷浜工業団地

- ⑪鹿島液化ガス共同備蓄株式会社
- ⑫神栖バイオマス発電所合同会社



●神之池西部地区

～国内最大の飼料コンビナートを形成～

鹿島臨海工業地帯の西部に位置する「神之池西部地区」は、鹿島港の北航路及び南航路に接し、東関東自動車道水戸線・潮来ICまで7km、JR鹿島線（鹿島臨海鉄道大洗鹿島線）鹿島神宮駅から10kmに位置しています。

飼料関連企業により国内最大の飼料コンビナートが形成されているとともに、鉄鋼、食品、木材、石油化学メーカー等の多様な業種企業が立地している他、地区内の関連施設用地には、物流関連等の企業が立地しています。



神之池西部地区



①花王株式会社 鹿島工場



②昭和産業株式会社 鹿島工場



③DIC株式会社 鹿島工場

その他の主な立地企業

- ④日本アルコール産業株式会社 鹿島工場
- ⑤関東グレーンターミナル株式会社
- ⑥全農サイロ株式会社 鹿島支店
- ⑦中国木材株式会社 鹿島工場
- ⑧株式会社ニッスイ
ファインケミカル総合工場鹿島油脂工場・鹿島医薬品工場



●高松地区

～鉄鋼コンビナートを形成する国内有数の鉄鋼製品の生産拠点～

鹿島臨海工業地帯の北部に位置する「高松地区」は、鹿島港の中央航路及び北航路に接し、東関東自動車道水戸線・潮来ICまで8km、JR鹿島線（鹿島臨海鉄道大洗鹿島線）鹿島神宮駅から6kmに位置する等、立地条件に恵まれた地区です。

日本製鉄株式会社東日本製鉄所鹿島地区を中心とする大手鉄鋼メーカーや関連企業数社が立地し、鉄鋼コンビナートが形成されています。国内有数の鉄鋼製品の生産拠点となっています。



高松地区



①日本製鉄株式会社 東日本製鉄所 鹿島地区

その他の主な立地企業

- ②新日本電工株式会社 鹿島工場
- ③日鉄テックスエンジニアリング株式会社
東日本支店（鹿島地区）



ここが鹿島の強み!

臨海工業地帯の共有インフラ

鹿島臨海工業地帯独自の取組として、工場・事業所の生産活動の基盤となる発電設備や施設管理等の共同事業化を採用しています。鹿島臨海工業地帯では、計画的に企業立地が進んだことにより、特に神之池東部地区には石油化学コンビナートが立地しました。同じような業種で構成されたことにより、パイプライン等の設備を管理運営する必要が生じたこと、電力供給の面でも共有化によりコストカットが図られることから、コンビナート構成会社の出資により、設備等管理会社と電力会社が設立されました。

日本で唯一! コンビナート 共通施設等を管理

●鹿島共同施設株式会社

道路・配管・緑地等の共有施設等を管理・運営するために、1969年に、コンビナート構成会社の出資により設立。以降、共同緑地等の維持管理や施設・環境パトロールなどにより、いち早く環境保全に取り組んでいます。



独自のシステム 出資企業へ電気・蒸気を供給

●鹿島北共同発電株式会社

鹿島東部コンビナートの北グループ各社に電気と蒸気を供給するエネルギーセンターとして、1968年に設立。三菱ケミカル・鹿島石油・鹿島電解・信越化学等、現在12社の株主へ供給しています。総発電能力48万kWを有する国内最大級の自家発電会社です。



●鹿島南共同発電株式会社

鹿島東部コンビナートの南グループ各社に電気・蒸気・純水を供給する会社として、1968年に設立。AGC・ENEOSマテリアル・クラレ・三菱ガス化学等、現在15社の株主へ供給しています。2020年より都市ガスを燃焼したガスで直接発電機を回して発電する「ガスタービンコージェネレーションシステム」を導入。



周辺地域の特徴

茨城県東南部に位置する鹿島地区
鹿嶋市・神栖市の2市にまたがる港湾エリア

▼鹿嶋市 - Kashima City -

古代の歴史が息づくサッカーのまち

Jリーグに加盟する鹿島アントラーズのホームスタジアムがあるサッカーのまちとして有名な鹿嶋市。試合日には、たくさんのサポーターが市内外から訪れます。常陸国一之宮・鹿島神宮の門前町として発展した歴史のある場所で、昭和30年代の後半に始まった鹿島開発により、鉄鋼業を主要産業とした近代工業都市へと大きく変貌を遂げました。



▼神栖市 - Kamisu City -

子育てしやすいまち/スポーツのまち

神栖市では、妊娠・出産から乳幼児、小・中学生に至るまで幅広い様々な子育て支援を行っています。多くの公園や児童館など、公共施設が充実しており、子育てに適した生活環境が整っています。また、スポーツのまちとして知られ、市内には約100面のサッカー場やかみす防災アリーナ等の運動施設が充実しており、年間を通して多くの人々が訪れます。



●南海浜地区

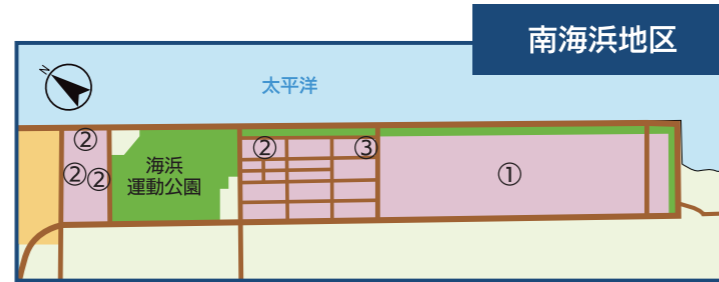
～電気炉鉄鋼メーカーをはじめ、倉庫・運送業などの企業が立地。海上では風力発電設備が稼働～

「南海浜地区」は神之池東部地区の東に位置する埋め立て地区であり、南北に細長い地区です。鹿島港や国道124号に近接する等、交通インフラが充実した場所であり、電気炉鉄鋼メーカーをはじめ、倉庫・運送業などの企業が立地しています。

隣接する海上では、15基の風力発電設備が稼働しており、沖合にはさらに19基の設置が予定されています。さらに周辺には、風力発電に従事する作業員が国際的に認められた厳格な安全基準に基づいて訓練を行うことができる「GWO(Global Wind Organisation)認証トレーニングセンター」も立地しています。洋上風力発電分野の人材育成拠点となっています。

その他の主な立地企業

- ②株式会社上杉物産
- ③株式会社ウィンドパワーグループ



①JFE条鋼株式会社 鹿島製造所

●波崎地区

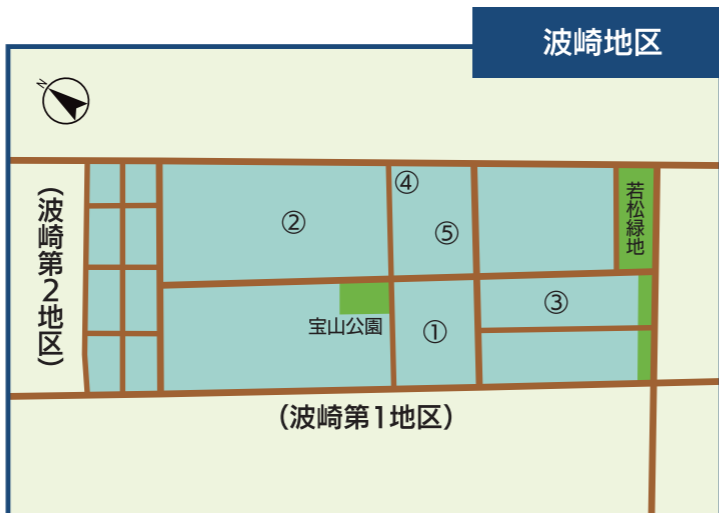
～医農薬品、合成樹脂、機器等の多様な企業が立地～

神栖市中央部に位置する「波崎地区」は、東関東自動車道水戸線・潮来ICから南東に16kmの内陸に位置する地区です。本地区には波崎工業団地が形成されており、医薬・農薬品、合成樹脂、機器等の多様な業種のメーカーや物流関連等の企業が立地しています。

街路樹の名前が付けられた広い道路によって、整然と区画されています。



①ダイキン工業株式会社 鹿島製作所



②ケイミュー株式会社 鹿島工場

その他の主な立地企業

- ③イーザイ株式会社 鹿島事業所
- ④株式会社サン・ペトロケミカル
- ⑤三洋化成工業株式会社 鹿島工場

